

ジャパンプラブ NEWS LETTER

Japan Club : 1759 Sutter Street #203, San Francisco, CA 94115 • Tel: 415-931-9424

- ・ 講演会「阪神淡路大震災から学ぶ」の報告
- ・ 海外安全対策連絡協議会 2008年
- ・ 2009年行事のアウトライン

2008年11月

ジャパンプラブ11月度理事会は、11月12日(水)午後6時30分から日米会館会議室において行われました。

まず去る11月4日、日米会と共催で催された神戸から来訪の辻信一、高橋哲の両氏を講師に迎えた「自然災害にそなえて、阪神淡路大震災に学ぶ」と題した講演会の報告が、福光哲史副会長からありました。当日の出席者42名でしたが、ジャパンプラブ発足の起因となった議題であっただけにもっと多くの会員の出席が期待されただけにちょっと残念であったとの感想と共に、今回の講演会に關係する経費は日米会と原則折半としジャパンプラブの支出額は計 100.07 ドルとなったことが報告され了承されました。

また、この講演会についての感想が別記通り上野正安会長から述べられました。

議事に移り来年度の事業計画のうち、次の各件について報告がありそれぞれ了承されました。

恒例の餅つき新年会

2月1日(日)今年と同じ日本町JCCCNC 一階の気持会ランチ会場において催す。運営担当は北哲也副会長、イベント等は今後検討し過去の新年会以上の内容にする。また会員の皆さんからイベントについての案があれば事務局に連絡してもらおう事とする。

秋のピクニック

会場は今年(2008年)と同じマリカウンティーのマックニアールビーチとし、大隈敏男副会長がすでに予約を完了、使用料として175ドルを支払済みとの報告があり、了承されました。開催日は9月19日(土) 10:00AM~3:00PM です。

ガレージセール

来年も北哲也副会長を中心に企画することで日程その他は後日決定する。

来年度(2009年)ジャパンプラブ年会費

会の運営資金と費用に大きな変動もないため従来通り、年会費は 35ドルを据え置き、2月末日までに納入してもらおう事とし、ニュースレター郵送の際に請求書を同封し支払いを求める

事とします。

ジャパンプラブのインターネットサイト

アクセスのための URL(リンク)が替わりました。

「お気に入り」を <http://www.jpncclub.org>

に変更してください。

古いアクセス <http://www.jc-sf.org> は

3月末まで有効。

なお、12月度理事会は12月3日(水)に開催されます。

福光哲史



海外安全対策連絡協議会

在留邦人の安全対策を目的に在サンフランシスコ日本領事館が主催する「海外安全対策連絡協議会」(略称、海安協)が11月2日午後北カリフォルニアとネバダ州内の日本人会、日本の団体、日系企業等の出席のもと、本岡英行首席領事が座長となり、総領事館で開催されました。

今回で9回目となる、この日の海安協には阪神淡路大震災で被災し、その後の復興活動にたずさわった、神戸市在住の辻信一さんと西宮市在住の高橋哲さんの二人が講師として招かれました。被災後の復興の模様や被災者の心のケアなど、特に災害によるインフラの復旧と共に、大切なのは被災による心的外傷後のストレス障害などに悩む人が多いので、この症状の回復を図る事の大切さ、そして復興には行政と住民の連携も大切だが専門家を入れた三角関係による話し合いがよい結果を生むなど、大震災から10年を経た神戸復興の実体験が語られました。また毎年地震発生時の1月17日に女優竹下景子さんを迎えての詩の朗読会が住民同士が苦楽を分かち合い、助け合うイベントとして復旧への大きな励みになってることが紹介され、実体験による講演だけに出席者に深い感銘を与えました。この日の海安協にはジャパンプラブから 福光哲史、木村滋氏が出席しました。 福光哲史

「阪神淡路大震災に学ぶ」出席報告及び私の近況

ジャパンプラブ会長 上野正安

ジャパンプラブ及び日米会共催による「阪神淡路大震災に学ぶ」講演会は11月4日、ユニオン・バンク日本町支店で約40人を集めて開催されました。当日は講演会開催にご協力頂いた小川領事やサンフランシスコ日本語補習校植木校長以下先生方も出席されました。講師は日本から来て頂いた臨床心理学士高橋哲氏及び神戸まちづくり研究所辻信一氏のお二人で、高橋氏からは大きな自然災害から必然的に生ずる心の傷がどのような脳のメカニズムを通して発生し、それをどうケアしていくべきかについて話があり、辻氏は震災の後の復興の過程で市民がどのように参加したかの説明がありました。私にとっても初めての話で大きな自然災害の余波が実に奥深いことを教えられました。

サンフランシスコは1906年に壊滅的な大地震に見舞われ、近くは1989年に我々の多くが記憶している大地震がありました。アメリカ西海岸は日本列島やスマトラ半島と同様、地球上に浮いている4つの大きなプレートが重なり合っている場所で、実を言うと小さなものを含めれば地震はほぼ毎日のように起こっています。但し、その多くは深度が非常に深いところや人里離れたところだったりして人間が身体的に感知していないだけのことです。その意味では地震予知そのものは可能ですが、地震の起こったときの被害は予測不可能です。だからこそ日ごろから地震への基本的な備えをして、その上で地震が起こったときに被害に応じてどのように対応すべきかを考えておく必要があります。

今回の講演で「まちづくり」の方はジャパンプラブ会員の皆様に直接関係する問題ではありませんでしたが、「心のケア」の方は我々にとっても心すべきことのように思われました。私も今回の講演で教えられましたが、大きな災害が起こると家もなくなり、家族を失い、金銭的にも追い込まれると言う正常な状態では考えられない事態に直面する人が多く出てきます。そんな時に物質的支援は勿論有難いことですが、精神的ショックを如何に乗り越えて行くかということが実はより重要な問題です。そんな時、お互いに励ましあえる人が周囲に居ればどれだけ心強いかわかりません。ジャパンプラブは相互扶助のためのNPOですが、お互いに契約によって相互扶助をするのではなく心で繋がっている組織です。大きな災害が起こった場合、領事館もお墨付きの連絡網でお互いの状況を知らせ合えば、何か物質的に出来ることがあればそれに越したことはないし、もし自分も被害を受けて他の人に物質的支援が出来なくても、お互いの状況を知らせ合うことによって少なくとも他の人の孤独感を救うこと出来ます。但し、災害の時に真に助け合えるためには日ごろからできるだけクラブの行事に顔を出し、気心のあう人を一人でも多く作っておくことが必要です。勿論、そんな功利的な考えでなく、クラブの行事を楽しんで頂ければ自然に友人は出来ますので、これからは是非クラブの行事に参加することを心からお勧めします。

本題からは少し離れますが、会員のある方から会長の顔が見えないので、この機会を捉えて近況報告をすべきだと言うお話がありました。ご興味のない方は読む必要はありませんが、以下簡単に私が日本でやっていることを説明します。

私は2000年に会社を引退した時、これからはもっと社会や友人のために出来ることをしようと決心しました。それは残り少なくなった人生を少しでも意味のあるものにしたかったからです。そこで何でも頼まれごとには出来るだけ受けることにしました。その結果、私が今、日本でやっていることは業界政治団体理事長、女子大講師、高校同期会世話役などです。先ず、ネットワーク・ビジネス推進連盟理事長の仕事は日本にいる間は少なくとも週1回オフィスに顔を出し、国会議員と会ったり、対外的な折衝をしたり、頼まれた原稿を書いたりすることです。10月にはシンガポールでこの業界の世界大会が開催され、50カ国から500人の代表が参加しましたが、私もその一人としていってきました。群馬県立女子大国際コミュニケーション学科では「国際舞台の日本人」というテーマで講義を行い、私の海外ビジネス体験を基に国際人となるための要件を教えています。私は札幌東校出身ですが、同期生が東京に150人ほど出ており、年1回の総会の他随時の会合の世話をしております。いずれも大したことではありませんが、私が居ないと困ることも事実で、やむを得ず年3回の日米往復をここ8年間続けています。ジャパンプラブ会長としては些か皆様に申し訳ないと思っていますが、そんなことで私が時々、不在であることをお許し願いたいと思います。

近いようで遠くなった日本

年末年始を故郷でと思うのは海外で過ごす日本人の心情かと思いますが、今年はそんな思いを吹き飛ばす悪環境で帰国を思いとどまった人も多いのではないのでしょうか。



各航空会社が燃料の高騰から「燃料サーチャージ」を導入して約半年、日本航空、全日空共現在のサーチャージは往復600ドルが通常の運賃に加算されるだけに、家族で帰国しようとする大変な高額出費を余儀なくされるばかりか、このところの急激な「円高」、これでは旅行を取りやめる気持ちになるのは当然の事でしょう。

こうした中、このほど日本航空、全日空共、来年1月から米国・日本 往復のサーチャージを200ドル程度引き下げると発表しましたが、その後については1月から3月までの燃料の動向をみた上で、決めるとの事で、来年4月から果たしてどうなるか、気になるところです。

旅行者が泣く高額な出費、日本航空、全日空共にその影響で客離れで頭が痛いとのこと。につつきは油の価格の高騰といったところでしょうか。

やっぱり“ふるさと”は遠きにありて思ふもの”ですかね。

福光哲史